

## 建築積算業務における電子データ化の推進

情報化評議会／LiteS 委員会／建築見積 WG

### 1. 活動テーマ

建築見積業務分野における電子データ化の推進

### 2. 取組み状況

#### (1) 建築数量積算の実証

建築見積 WG を 1 回、建築見積 WG コア会議を全 3 回開催した。

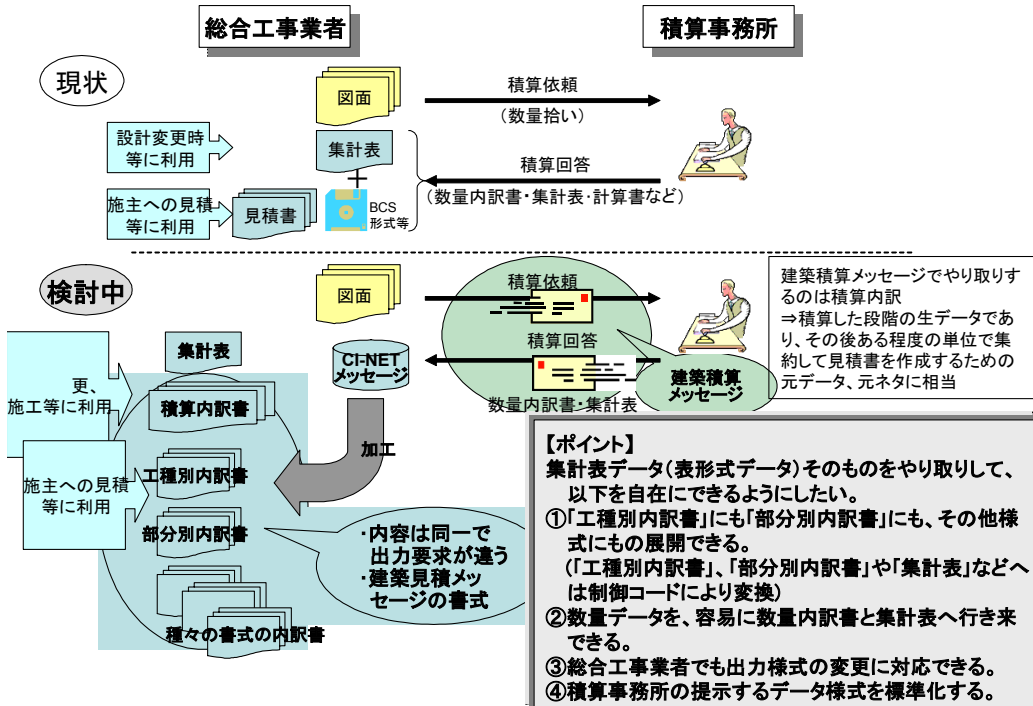
#### (a) 建築積算メッセージの概要

##### ①メッセージ開発の背景・目的

CI-NET LiteS 実装規約で策定した建築見積業務のメッセージは、総合工事業者と専門工事業者や積算事務所あるいは総合工事業者と建築主との EDI(電子データ交換)を目指している。

各当事者間でデータ交換する情報の元となる躯体・仕上集計表（以下「集計表」という。）については、ほとんどの総合工事業者において積算事務所からの納品を受けているが、書面によるケースではその情報を電子データとして活用できず、また電子データで授受されるケースでもフォーマットの違いがあるなど、その授受に関していくつかの課題が挙げられている。

### 建築見積WGで検討していること



そこで EDI による授受を目指して「集計表」に着目し、集計表データの活用が可能方法やフォーマットの標準化、必要なデータ項目の検討およびその授受を行うためのメッセージ構造の検討等に着手し、これを「建築積算メッセージ」として開発を進めてきた。

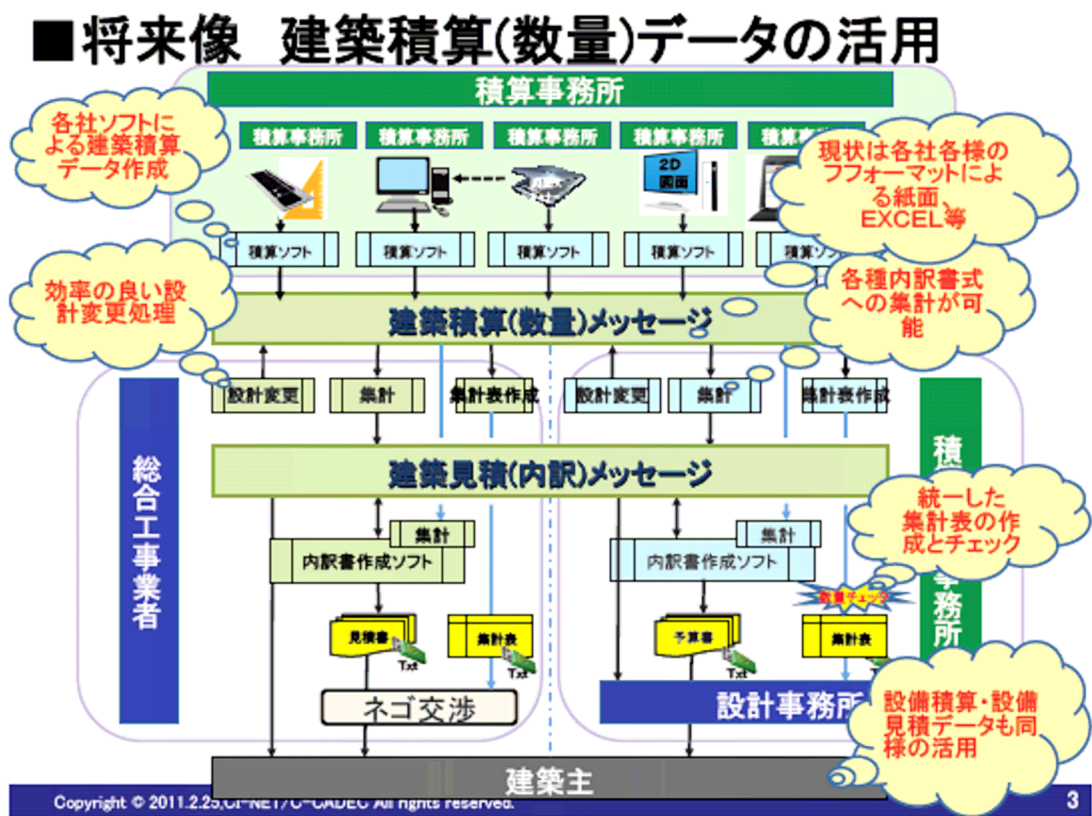
②建築積算メッセージの適用のメリット

総合工事業者、積算事務所等それぞれのデータ交換に関わる当事者において、以下に示すようなメリットを享受することが可能である。

- ・ 種々の内訳様式に対応  
「工種別内訳書」「部分別内訳書」など種々の様式に対応できる。
- ・ 設計変更や内訳様式変更への対応の手間の削減  
－数量データを容易に数量内訳書と集計表に変換できる。  
－積算事務所だけでなく、総合工事業者でも出力様式の変更ができる

(b) 建築積算メッセージの活用イメージ

上記の建築積算メッセージ適用のメリットにも記載している通り、総合工事業者と積算事務所間のやり取りを円滑に行うことができるだけでなく、データ構造やメッセージにおける使用データ項目を工夫することで、下図のような対応ができるようにしている。



具体的には、マトリックスの構造のデータをメッセージとして表現できるようにしたり、設計変更や建築主の種々の集計方法に対応できるようにフラグ項目を設定したりしている。これによりデータ構成の多様性に対応し、例えば見積書の印刷順序を制御するといったこともできる。

(c) 建築積算メッセージの実証に関して

①実証の必要性

本年度はWGに参加しているシステムベンダを中心にこれまでの議論の結果をもとに実際にシステムに落とし込み、机上の検討結果の実現可能性について検証する。

データ構造、メッセージ構造が従来のメッセージとは異なっており、実装可能であることを確かめた上で規約化の議論につなげることを考える。

②実証の概要

現状、④で触れるように実証に参加する積算ソフトベンダを募っている状況にあり、実証の内容について確定していない部分もあるが、これまで詰めてきている内容について以下に示す。

(ア)実証の範囲

- ・ 規模：躯体1箇所(棟)、仕上1箇所(棟)程度を想定
- ・ 下記(イ)の自社内部分の確認(データの出し手/受け手が同じもの)を必須とし、他社データの取り込みは可能な範囲で対応する

(イ)ベンダ間の互換性検証

- ・ 積算事務所はデータの出し手、総合工事業者(外販ソフト)は受け手として組み合わせを整理
- ・ 出力形式はCSV (CII形式にはしない)
- ・ 他社ベンダのソフトとのやり取りに関しては、実証する上ではベンダ間で取り込み不可能なものは除いたデータで検証を行う。

(ウ)ベンダ間の互換性検証データの違いの影響

- ・ 積算ベンダ側で保有しているテストデータを使用することを基本とする(どのようなデータを準備、使用するかは今後の詰めが必要)

③平成 22 年度中の実証実験状況

上記実験概要のうち、(イ)ベンダ間の互換性検証に関連して、一部実験に着手した。

(ア)同一積算システム内での入出力実験

同一積算システム内での入出力実験として、積算ソフトベンダA社の建築積算システム(仕上)を用いた実験を行った。

- 1) 建築積算メッセージファイルを作成する。
- 2) 上記で作成された建築積算メッセージファイルを読み込む。

(イ) 他社システムとの連動実験

異なる積算システム間の連動実験として、積算事務所B社の仕上システムで出力した実証用データを、積算ソフトベンダA社の建築積算システム（仕上）で読み込む実験を行った。

- 1) 外部システムで作成された建築積算メッセージを読み込む。

項目	2010年12月	2011年1月	2011年2月	2011年3月	2011年4月	備考
A社 ①システム開発 ②実証実験 ・同一システム データ出力 データ入力 ・他社システム データ入力	→					(B社積算データ) 「事務所専用部」 ・部位別集計表 12頁 ・科目別集計表 9頁 ・データ件数 534件
B社 ①システム開発 ②実証実験 データ出力		→	→			
			→	→		
			→	→		

(ウ) 実証実験結果

上記のスケジュールに従い実証実験を実施し以下のデータ入出力を確認した。

- ① 同一システム内でのデータ入出力
- ② 他社システムとの連動

(エ) 実証実験で確認された課題

以下の点について課題が出てきている。

- ・ データ項目に関連して、「細目名称」という名称以外に「細目コード」に該当するデータ項目が必要。
- ・ 今回実験に使用したデータは、EDIデータ構造上比較的簡易な構造のものであったが、複雑なマルチ構造となるデータについても実証を行ってみる。

④(社) 日本建築積算協会への協力依頼

「①実証」を行うにあたって、積算ソフトを提供するシステムベンダについては、より幅広いユーザ企業をカバーする意味でも、建築見積WG参加のベンダ以外にも協力を仰ぎたい。そのために建築見積WGにメンバを出していただいている(社)日本建築積算協会に協力依頼を行いたいと考えている。具体的には、(社)日本建築積算協会の会員ベンダに実証参加の要請をお願いするものである。

これについては、事務局にて文案を作成し、委員長、主査に確認いただいたのち、同協会に対し提示、説明して協力を得ることとした。

建築積算依頼・回答メッセージの使用データ項目一覧表

タグ	項目名	属性	byte数	小数	*	回数	依頼必須	回答必須	概要	備考
<b>全体情報部分（鑑）</b>										
1	データ処理No.	9	5				●	●	受信者での受信データの処理順序を示す番号。受信者は、受信データをこの番号の昇順に処理すること。	
2	情報区分コード	X	4				●	●	情報の種類を示すコード。	
3	データ作成日	9	8				○	○	メッセージデータを作成した年月日。	
4	発注者コード	X	12				●	●	注文を行う側の企業及びその事業所・担当部署・作業所などを示す標準企業コード。	
5	受注者コード	X	12				●	●	注文を受ける側の企業及びその事業所・担当部署・作業所などを示す標準企業コード。	
1197	サブセット・バージョン	X	12				●	●	メッセージサブセットの版。	
9	訂正コード	X	1				●	●	情報の新規・一括変更・全文取消・一部変更を示すコード。	
1006	工事コード	X	12				○	○	工事場所、受渡し場所、原価管理上の区分などを示すコード。	
1007	帳票No.	X	14				●	●	帳票の番号。	
1008	帳票年月日	9	8				○	○	帳票に記載する年月日。例として、見積依頼メッセージにおいては見積を依頼した年月日を、見積回答メッセージにおいては見積を回答した年月日を表す。	
1009	参照帳票No.	X	14					○	注文番号・契約番号など、取引を特定するための参照帳票の番号。	
1013	受注者名	K	40				○	○	受注者の名称。	
1017	受注者担当部署名	K	40				○	○	受注者の事業所・担当部署・作業所などの名称。	
1018	受注者担当者名	K	20				○	○	受注者の担当者の氏名。	
1019	受注者担当郵便番号	X	10				○	○	受注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用の郵便番号。	
1020	受注者担当住所	K	60				○	○	受注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用の住所。	
1021	受注者担当電話番号	X	15				○	○	受注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用の電話番号。（市外局番を含む）	
1022	受注者担当FAX番号	X	15				○	○	受注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用のFAX番号。（市外局番を含む）	
1024	発注者名	K	56				○	○	発注者の名称。	
1028	発注者担当部署名	K	40				○	○	発注者の事業所・担当部署・作業所などの名称。	
1029	発注者担当者名	K	20				○	○	発注者の担当者の氏名。	
1030	発注者担当郵便番号	X	10				○	○	発注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用の郵便番号。	
1031	発注者担当住所	K	60				○	○	発注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用の住所。	
1032	発注者担当電話番号	X	15				○	○	発注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用の電話番号。（市外局番を含む）	
1033	発注者担当FAX番号	X	15				○	○	発注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用FAX番号。（市外局番を含む）	
1042	工事場所・受渡し場所名称	K	76				○	○	工事場所・受渡し場所（納入場所）の正式名称。	
1045	取引件名(注文件名)	K	40				○	○	発注工事の名称・納入物品の名称など取引の名称。	
1070	見積有効期限年月日	X	8				○	○	見積書の有効期限の年月日・時分秒。（時分秒については省略可）	
1140	見積有効期間	K	40				○	○	見積書の有効期間を文面で示す。	
1088	明細金額計	N	12			13	○	○	[1223] 明細金額の合計。	
1096	消費税額	N	12			13	○	○	[1090] 調整後帳票金額計（請求書の場合は [1112] 今回請求金額計）に対する消費税の合計。	
1097	最終帳票金額	N	12			13	○	○	[1090] 調整後帳票金額計（請求書の場合は [1112] 今回請求金額計） + [1096] 消費税額。	
1136	備考	M	240			1	○	○	帳票についての特記事項・参考情報を文面で示すフリーエリア。	
1179	帳票データチェック値	X	15			9	○	○	メッセージデータの授受が正確に行われているかどうかをお互いにチェックするための項目。【例】全明細行数などをセットする。	

内訳明細

タグ	項目名	BP 属性	Lite S 属性	byte 数	小 数 チ	マ ル チ	依 頼	回 答	摘要(各項目の意味)	桁数の根拠
<b>明細情報区分</b>										
1200	明細コード	X	X	50	∞	∞	●	●	明細データを特定しデータ階層上の位置を示すコード。	既存項目のまま
新規	補助金申請有無表示順コード	X	M	4	∞	∞	○	○	補助金申請物件であるかの表示順を表すコード。	
新規	補助金申請有無区分	K	M	30	∞	∞	○	○	補助金申請物件であるかの区分。	
新規	工区表示順コード	X	M	4	∞	∞	○	○	工物件の工区の表示順を表すコード。	
新規	工区分	K	M	30	∞	∞	○	○	工物件の工区の区分を表す。(例、A工区、B工区)	
新規	ゾーン表示順コード	X	M	4	∞	∞	○	○	工物件のゾーンの表示順を表すコード。	
新規	ゾーン区分	K	K	30	∞	∞	○	○	工物件のゾーンの区分を表す。(例、Aゾーン、Bゾーン)	
新規	棟表示順コード	X	M	4	∞	∞	○	○	建築物の棟の表示順を表すコード。	
新規	棟区分	K	M	30	∞	∞	○	○	建築物の棟を表す。(例、A棟、B棟)	
新規	内部/外部区分コード	X	M	4	∞	∞	○	○	対象となる部位に係る内部/外部の区分を表すコード。	
新規	タイプ表示順コード	X	M	4	∞	∞	○	○	対象となる部位の用途の表示順を表すコード。	
新規	タイプ区分	K	M	30	∞	∞	○	○	対象となる部位の用途を表す。(例、Aタイプ、Bタイプ)	
新規	タイプ倍数	N	N	3	∞	∞	○	○	用途区分の倍数を表す。	
新規	階表示順コード	X	X	6	∞	∞	○	○	対象となる部位が存在する階の表示順を表すコード。	
新規	階区分	X	M	30	∞	∞	○	○	対象となる部位が存在する階を表す。	
新規	躯体仕上コード	X	X	1	∞	∞	○	○	対象となる部位に係る躯体/仕上の区分を表すコード。	
新規	集計部位コード	X	M	4	∞	∞	○	●	集計単位別の部位を表すコード。	
新規	部位表示順コード	X	M	12	∞	∞	○	○	集計区分毎の表示順を表すコード。	
新規	合成名称コード	X	M	12	∞	∞	○	○	集計部位内の一連の記号を表す。集計部位内では重複がないように付番する。	
新規	合成名称単位	K	M	6	∞	∞	○	○	部位の中での詳細な種類に係る単位。	
新規	合成名称	K	M	32	∞	∞	○	○	集計部位毎の名称を表す。	
新規	躯体品目名称コード	X	M	12	∞	∞	○	○	躯体に関わる品目の名称を表すコード。	
新規	部屋名(部屋略称)	K	M	32	∞	∞	○	○	対象となる部屋の名称を表す。	
新規	部屋コード	X	M	12	∞	∞	○	○	対象となる部屋のコードを表す。	
新規	部屋表示順コード	X	M	12	∞	∞	○	○	対象となる部屋の表示順を表すコード。	
新規	部屋倍数	N	N	3	∞	∞	○	○	金額計算の際の倍数。	
新規	積算数量	N	N	7	3	∞	○	○	金額計算の基本となる積算数量。	
新規	合成名称内順位コード	X	M	2	∞	∞	○	○	各合成名称における仕上/下地の順位を示すコード。 (繰り返しは10までとする)	
1288	明細データ属性コード	X	X	1	∞	∞	●	●	[1200]明細コードと組み合わせて使用し、総括明細、内訳明細、見積条件などの明細データの属性を表すコード。	既存項目のまま
1289	補助明細コード	X	X	2	∞	∞	●	●	[1200]明細コードおよび[1288]明細データ属性コードと組み合わせて使用し、明細データの補助的な属性を表す	既存項目のまま
新規	表現名称(拾い仕上名称)	K	M	32	∞	∞	○	○	仕上に係る数量拾い用の名称を表す。	適当(16字)
新規	拾い仕上コード	X	X	12	∞	∞	○	○	仕上に係る数量拾い用のコードを表す。	
1279	建設資機材コード	X	X	40	∞	∞	○	○	建設資機材に対して採番された中間コード	既存項目のまま
1213	品名・名称	K	M	54	2	∞	○	○	仕上に係る内訳書用の名称を表す。	既存項目のまま
1214	規格・仕様・摘要	K	M	66	2	∞	○	○	規格・寸法・仕様などの摘要。	既存項目のまま
1401	設計記号・機器記号	X	M	12	∞	∞	○	○	明細データと設計図書的设计記号あるいは機器記号との対応を示す	既存項目のまま
新規	詳細部位表示順コード	X	M	12	∞	∞	○	○	詳細部位毎の表示順を表すコード	他の「区分」「部位」と同じ
新規	詳細部位	K	M	20	∞	∞	○	○	見積書に表現する部位名称を表す。	適当(10字)
新規	部分別コード	X	M	12	∞	∞	○	○	編集部位に対応したコード	他の「区分」「部位」と同じ
1402	明細別工種・科目コード	X	M	12	∞	∞	○	○	明細データの工種、科目を示す	既存項目のまま
1432	科目	K	K	20	∞	∞	○	○	明細データごとの原価管理上の科目名	既存項目のまま
1434	細目	K	K	20	∞	∞	○	○	明細データごとの原価管理上の細目名	既存項目のまま
1403	部位区分									
1218	明細数量	N	N	7	3	∞	○	○	明細書の記載数量 (積算数量×明細数量掛率)	数量の一般的なもの
新規	明細数量掛率	N	N	7	4	∞	○	○	積算数量から明細数量を算出するための掛率	数量の一般的なもの+小数4桁
1219	明細数量単位	K	M	6	∞	∞	○	○	明細書に記載するための明細数量に対する単位	「単位コード」に準拠
新規	材料単価	N	N	12	1	∞	○	○	品目・名称ごとの単価 (定価×単価掛率)	既存項目のまま
新規	材料単価掛率	N	N	7	4	∞	○	○	品目・名称ごとの明細数量単価算出のための掛率	数量の一般的なもの+小数4桁
1222	単価	N	N	12	1	∞	○	○	[1218]明細数量1単位あたりの価格。材料単価×材料単価掛率	既存項目のまま
1292	定価	N	N	12	1	∞	○	○	品目・名称ごとの材料単価に対応した定価	既存項目のまま
1293	単価掛率	N	N	3	1	∞	○	○	材料単価の掛率。	既存項目のまま
1404	仕分け区分	X	M	24	∞	∞	○	○	明細データの仕分け等に使用するためのフリーエリア。	既存項目のまま
1251	明細別備考欄	K	M	16	2	∞	○	○	明細データごとの特記事項・参考情報を文面で示すフリーエリア。	既存項目のまま

## 集計表の区分に使用する新規コード

項目名	コード 固定/フリー	コード値 (「フリー」のコードについては、例を示した)
工区分	フリー	【例】 ・A工区、B工区、… ・第1工区、第2工区、…
ゾーン区分	フリー	【例】 ・Aゾーン、Bゾーン、… ・賃貸部、分譲部、オーナー部、…
棟区分	フリー	【例】 ・A棟、B棟、… ・本棟、付属棟、研究棟、…
内外区分コード	固定	・外部=「1」、内部=「2」、その他=「9」
タイプ区分	フリー	【例】 ・倉庫、学校、事務所、工場、… ・美術館、図書館、公民館、…
階区分コード	固定	「①・②③④・⑤⑥」の6桁コードとし ①は、1=基礎、2=地下、3=地上、3=棟屋、9=その他 ②~④は、階数として1~999 ⑤⑥は、1つの階を区分する場合に使用する枝番として1~99
階区分	フリー	【例】 B1、B2、…、B9F 1F、2F、…、99F P1、P2、…、P9
躯体仕上コード	固定	・躯体=「1」、仕上=「2」、その他=「9」 →集計部位コードとは別に、躯体か仕上かの区分を行うコードが別途必要との意見より復活(集計部位コードや躯体品目コードと組み合わせて使用)
集計部位コード	固定	【仕上】(10番おきの番号に変更) 屋根=「2010」 床=「2020」 巾木=「2030」 壁=「2040」 柱型=「2050」 梁型=「2060」 廻り縁=「2070」 天井=「2080」 間仕切=「2090」 開口部=「2100」 その他仕上=「2900」
		【躯体】(10番おきの番号に変更) 基礎=「1100」 独立基礎=「1110」 布基礎=「1120」 底盤=「1130」 基礎大梁=「1140」 基礎小梁=「1150」 基礎柱=「1160」 柱=「1200」 間柱=「1210」 大梁=「1220」 小梁=「1230」 壁=「1240」 床版(スラブ)=「1250」 地下外壁=「1260」 階段=「1270」 パラペット=「1280」 バルコニー=「1290」 ブレース=「1300」 雑=「1310」 土間=「1320」 その他躯体=「1900」

項目名	コード 固定/フリー	コード値 (「フリー」のコードについては、例を示した)
躯体品目名称コード	固定	コンクリート＝「100」 型枠＝「200」 鉄筋類＝「300」 鉄筋＝「301」 圧接＝「302」 溶接＝「303」 スパイラルフープ＝「304」 鉄骨＝「400」 その他＝「900」
詳細部位表示順コード	フリー	下記「詳細部位」について、表示したい順序で表現できるようコードを付与
詳細部位	フリー	【例】 ・屋上、屋根、敷面 ・床、スロープ床、踊場 ・段床、踏面、蹴上、段鼻、立上り ・巾木、ササラ巾木、段型巾木、サニタリー、出巾木、入巾木 ・根廻り、立上り ・壁、曲面壁、外壁、外周壁、柱型、円柱、手摺壁、下り壁、間仕切 ・天井、軒天井、下り天井、折り上げ天井、斜め天井、段裏、軒裏、デッキ底、スラブ底、梁型、 ・梁天端、梁底、柱天端、笠木、壁付笠木、手摺笠木、壁天端、PS天端、基礎天端、基礎立上り ・庇、庇天端、鼻先、天端、小口、水切、額縁、膳板、面台、見付、コーナー、ササラ、ボーダー ・段型ボーダー、防水押え、嵩上げ、排水溝、段型排水溝、壁出隅、壁入隅
部分別コード	固定	・屋根工事＝「1000」 ・床工事＝「2000」 ・壁工事＝「3000」 ・天井工事＝「4000」 ・間仕切工事＝「5000」 ・開口工事＝「6000」 ・雑工事＝「7000」 ・特殊工事1＝「8100」 ・特殊工事2＝「8200」 ・特殊工事3＝「8300」 ・特殊工事4＝「8400」 ・特殊工事5＝「8500」 ・その他工事＝「9900」

※コードのフリー／固定の意味

・固定

CI-NET標準ビジネスプロトコルにおいて、「CI-NETコード」に規定する類のコードで、採用できる値は既に用意されているものとなる。

・フリー

ユーザが任意に設定できるもので、桁数や属性に規定の条件はあるものの、その範囲内であれば自由に採番できるものである。

## メッセージの使用データ項目

### データ項目定義と運用の詳細

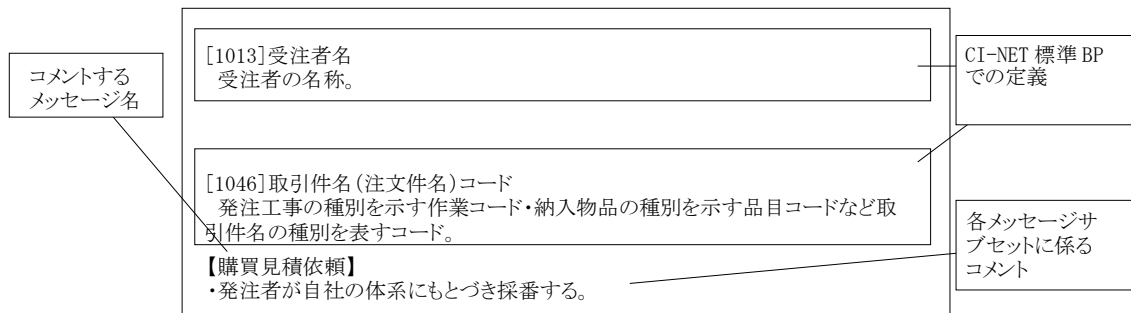


図 B. II.2-3 記載例

## B. II .建築見積

### [1402]明細別工種・科目コード

明細データの工種、科目を表すコード。

- ・工種、科目を表すコード。
- ・工種、科目の標準コードが策定されるまでの当面の運用としてかな漢字による記載も認めることとし、この間は 8 ビット文字、16 ビット文字(半角、全角)混在可とする。
- ・取引当事者間の合意により記載内容を取り決めるデータ項目であるが、以下のコードを遵守することが望ましい。

表 B. II .2-1 工種・科目コード

大分類コード	中分類コード	小分類コード	大分類科目	中分類科目	小分類科目
10	000	00	共通仮設工事	-	-
20	000	00	建築工事	-	-
20	010	00		直接仮設工事	-
20	020	00		土工事	-
20	030	00		地業工事	-
20	040	00		コンクリート工事	-
20	050	00		型枠工事	-
20	060	00		鉄筋工事	-
20	070	00		鉄骨工事	-
20	080	00		その他く体工事	-
20	090	00		既製コンクリート工事	-
20	100	00		防水工事	-
20	110	00		石工事	-
20	120	00		タイル工事	-
20	130	00		木工事	-
20	140	00		金属工事	-
20	150	00		左官工事	-
20	160	00		木製建具工事	-
20	170	00		金属製建具工事	-
20	180	00		ガラス工事	-
20	190	00		塗装・吹付工事	-
20	200	00		内外装工事	-
20	210	00		仕上ユニット工事	-
20	220	00		カーテンウォール工事	-
20	230	00		その他仕上工事	-
30	000	00	設備工事	-	-
30	010	00		電気設備工事	-
30	020	00		給排水衛生設備工事	-
30	030	00		空気調和設備工事	-
30	040	00		昇降機設備工事	-
30	050	00		機械駐車設備工事	-
30	060	00		その他設備工事	-
40	000	00	外構工事	-	-
50	000	00	解体・撤去工事	-	-
60	000	00	雑種工事	-	-
60	010	00		雑種工作物	-
70	000	00	諸経費	-	-
70	001	00		現場管理費	-
70	002	00		一般管理費	-
70	003	00		その他管理費	-
80	000	00	設計料	-	-

## 【参考】

表 B. II. 2-2 建築工事・設備工事における標準区分の内容

大分類・中分類	標準区分
共通仮設工事	
建築工事	
直接仮設工事	工事に直接関連する仮設で各科目に共通的なもの
土工事	土の掘削、排除ならびに基礎下の砂利敷、山留、土光の排水
地業工事	各種杭、特殊地業など
コンクリート工事	現場打コンクリート、捨・土間および防水押えコンクリートなど
型枠工事	上記コンクリートの型枠
鉄筋工事	RC造、SRC造等の鉄筋
鉄骨工事	S造、SRC造等の鉄骨
既製コンクリート工事	躯体および仕上用のPC、SPC、ALC、CB等
防水工事	主として材料または職種によって区分する。セメント防水を含む。
石工事	主として材料または職種によって区分する。
タイル工事	主として材料または職種によって区分する。れんがを含む。
木工事	主として材料または職種によって区分する。
金属工事	主として材料または職種によって区分する。樹脂製桶を含む。
左官工事	主として材料または職種によって区分する。
木製建具工事	主として材料または職種によって区分する。
金属製建具工事	主として材料または職種によって区分する。
ガラス工事	主として材料または職種によって区分する。
塗装・吹付工事	主として材料または職種によって区分する。各材質の吹付仕上を含む。
内外装工事	主として材料または職種によって区分する。
仕上ユニット工事	ユニット製品・建築機器・造付家具類およびユニットとみなして計上するもの。
カーテンウォール	コンクリート製は既製コンクリート、金属製は金属製建具の科目で処理することができる
その他工事	特殊ならびに上記の科目に該当しない材料および職種はこの科目で処理する
設備工事	
電気設備工事	受変電、動力、照明、防災、通信等の設備
給排水衛生設備工事	給排水衛生、消火、ガス、給湯等の設備
空調設備工事	冷暖房、温度調節、換気、空気浄化等の設備
昇降機設備工事	エレベータ、エスカレータ、ダムウエータ等の設備
機械駐車設備工事	立体駐車機械、出入庫管制等の設備
その他設備工事	上記以外の設備

## B. II .建築見積

### [1403]部位区分

明細データの部位を表す。

- 部位を表す名称、コード。
- 部位の標準コードが策定されるまでの当面の運用としてかな漢字による記載も認めることとし、この間は8ビット文字、16ビット文字(半角、全角)混在可とする。
- 取引当事者間の合意により記載内容を取り決めるデータ項目であるが、以下のコードを遵守することが望ましい。

表 B. II .2-3 部位コード

部位コード					
内外		部位		部位コード	
コード	名称	コード	部位	コード	名称
1	外部	010	屋根・屋上	1010	外部屋根・屋上
1	外部	020	床	1020	外部床
1	外部	030	巾木	1030	外部巾木
1	外部	040	壁	1040	外部壁
1	外部	050	柱型	1050	外部柱型
1	外部	060	梁型	1060	外部梁型
1	外部	070	開口部	1070	外部開口部
1	外部	080	天井	1080	外部天井
1	外部	090	廻縁	1090	外部廻縁
1	外部	110	その他	1110	外部その他
2	内部	020	床	2020	内部床
2	内部	030	巾木	2030	内部巾木
2	内部	040	壁	2040	内部壁
2	内部	050	柱型	2050	内部柱型
2	内部	060	梁型	2060	内部梁型
2	内部	070	開口部	2070	内部開口部
2	内部	080	天井	2080	内部天井
2	内部	090	廻縁	2090	内部廻縁
2	内部	100	間仕切	2100	内部間仕切
2	内部	110	その他	2110	内部その他